

# まこまない明星幼稚園 学校評価

## 学校評価のねらい

- ・教育活動、運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さなどについて評価することにより、組織的・継続的に改善を図る。
- ・自己評価及び保護者アンケート実施とその結果の公表により、保護者、地域住民などから理解を得て、家庭・地域の連携協力による幼稚園づくりをすすめること。
- ・設置者などが、学校評価の結果に応じて、幼稚園に対する支援や条件整備などの改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

## 2020年度 まこまない明星幼稚園 自己評価表

### 1. 園の教育目標

「光の子として歩みなさい」というキリスト教信仰を建学の精神とし、「神様と人から愛される子ども、思いやりと主体性のある子どもを育てる」ことを教育の目標とする。今年度は「ことばに満たされて～ひびきあう～」を目標とし、一人一人の子どものやる気を援助し、心身の健康増進をはかるとともに、子どもの創意工夫を大切にしながら、日々の保育に取り組んだ。

本園では目指す子ども像として次の4項目を掲げる。

- ①『他の人と協調できる子ども』
- ②『自立できる子ども』
- ③『感性豊かな子ども』
- ④『意欲的な子ども』

### 2. 本年度、重点的に取り組むことが必要な目標、計画を基に設定した学校評価の具体的な目標や計画

本年度も評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することにより、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とした。

### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

#### ①教育内容

評価項目	取り組み状況
教育課程を教育要領改訂に伴い点検し、編成し直す。	キリスト教保育の理念に従い、自由保育を基調として縦割り保育、学齢別保育を実施して園児のより豊かな成長を促した。新教育要領に基づいた教育課程の編成については、今後も引き続き点検していきたい。

教育課程に基づいた指導計画を作成し、定期的に評価し結果に基づいて見直しを行う。	月案、週案、日案を作成し、指導計画に基づいて、その都度反省・評価を行ない、見直しを行った。また、学期末と年度末に総括を行い、全体的な評価と見直しを行った。
個々の幼児について教職員で話し合う場を定期的かつ必要に応じて持つ体制を整える。	保育後の毎日の報告の中で、問題のある個々の幼児について話し合い、必要な対策を適宜講じた。また、特別に支援の必要な子どもについては、外部での指導計画や、検査結果をもとに、園での生活の中で教師間で共通理解に立ち、こどもたちに係っていくことを大切にしてきた。
幼児が安全で心地よく過ごすことができる環境を十分に整える。	環境を整えるということに関しては、換気、消毒に追われる毎日となったが、クラスターをだすことなく過ごすことができた。
教職員の資質向上の為に研修会に参加する機会を確保し、報告しあい園にとっての課題を共有する。	コロナ禍のため、研修会にさんかすることができなかったが、園内研修で、お互いの意見を出し合いながら子どもたちのために考え合うことができた。

## ②地域の幼児教育センターとしての役割

評価項目	取組み状況
未就園児の子育て支援の活動を見直し内容を検討する。	地域の子育て支援の一助として、「ひよこ組」毎週木曜日無料開放日として門を開けてきた。無料であること、いつ来てもいつ帰ってもよいところ、予約なしでくることができ、気楽に参加できるようであった。秋冬には、人数が減ってしまったが、後半は、園庭のみでの開放として、親子でたのしむことができた。駐車場の車の置き方が雑になったのが気になった。
保護者からの教育相談を受け入れ、場合により専門機関等に連携できる体制を整える	子育てに関する不安や喜びを保護者の方と共有することができた。保護者にとって、子育て支援の場が、リフレッシュできる笑顔で子育てできる場所でありたいと思う。 また、特別な支援を必要とする幼児について、札幌市の幼児教育センターの指導員をはじめ、専門機関

	との連携を取りながら、幼児にとって適切な援助ができるように配慮した。
預かり保育の内容を検討する。	<p>預かり保育利用者が増加し、担当教師を複数にしなければならない中、職員の配置が難しいこともあった。</p> <p>預かり保育担当者の配慮により、持ち物の整理の工夫や、個人のお昼寝用タオルの用意、季節に応じた遊び、生活環境づくりに努めた。</p> <p>昼寝用のベットを購入した。場所の確保や、衛生面でも考慮できた。</p>

### ③安全管理

評価項目	取組み状況
幼稚園設置基準第7条（一般的基準）をふまえ、安全管理に努める。	保育中は教職員の適正な配置によって園児の安全管理を心がけ、火災や地震などの災害に備えて防災訓練（年三回）を実施した。
伝染病予防に努め、発生時の対応を速やかに行う。	<p>手洗い、うがいなど、清潔で規則正しい生活を指導し、伝染病予防に努めた。コロナ禍に対しては、マスクを昼にとりかえることや、はだし保育での足の消毒など、対策することができた。</p> <p>コロナ感染予防に対しては、消毒・マスク着用・保育時間や行事についても教職員と話し合いながら、対応することができました。</p> <p>他の伝染病については今後も検討が必要。</p>

### ④人事管理

評価項目	取組み状況
正規職員・臨時職員がそれぞれ	職務分担がうまくできていない。それぞれの自覚、責

<p>れの職務分担を自覚し責任を果たせるように点検する。</p>	<p>任は差があるように感じる。臨時職員の先生の負担が多い。 臨時職員としては、できることが、時間内に行い、正職の先生の負担が少しでも減るように努めていきたい。 (お互いが思い合える教師間であることをアンケートで感じることができました。) 新採用の教師が1名退職、1名休職という実態があり、考えていかななくてはならない点である。</p>
<p>多様な職務内容を整理し働きやすい環境を整える</p>	<p>多様な職務を整理しながら、時間をうまく使っていけるようにしていきたい。なかなかうまくいかないのが、実態である。</p>

#### ⑤財務管理

評価項目	取組み状況
<p>予算を超える時にはその理由を分析し次年度の予算作成に生かす。</p>	<p>今年度は概ね予算どおり執行した。公認会計士からも適正な財務の執行が行われているとの助言を受けているが、今後も健全な経営を図るために営為努めていきたい。</p>
<p>教材などの在庫管理を適切に行う。</p>	<p>できるだけ教材を無駄にすることなく大切に使うことを心がけた。今後も教材室の整理や在庫管理を適切に進めていきたい。学期ごとの在庫確認を行っている。</p>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
<p>A</p>	<p>教職員一人ひとりが学校評価の主旨を理解し、各自が真摯に自己点検、自己評価にとりくんでいる姿勢が見られた。今年度は、だれも経験したことのない1年であったが、マンネリ化していたものを改めてみんなで考えながら良い方向を模索し検討することができた1年であった。 子どもたちと日々、祈りながら、神さまに守られ過ごすことができたことに感謝することができた。 教師の働き方については、課題が残るが、次年度に反省をいかしていきたいと思います。</p>

## 5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
自己点検、自己評価	各教職員においては更に課題を挙げるようにして自己研鑽にとりくむようにしている。
指導計画の編成	キリスト教保育の理念に基づき、自由保育、縦割り保育の意義を確認し、園を取り巻く環境や子どもの実態に即した新たな指導計画の編成にとりくんでいく。 認定こども園への移行について乳児保育の学びもふかめていきたい。
衛生管理について	消毒、換気のほかにも園生活でできることをはなしあっていきたい。自分の健康を守るだけでなく、周りの人に移さないということも心がけていく。